

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100324		
法人名	特定非営利活動法人しあわせサービス		
事業所名	グループホームゆめの丘		
所在地	島根県松江市美保関町北浦624- 1		
自己評価作成日	令和6年8月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290100324-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた立地条件を生かし、年間行事等で季節感や生活感を感じて頂けるよう支援しています。(春の桜の花見、夏場の地元での海開き参加、施設での地域の方を招いたそうめん流し、秋の芋煮会や、地域の保育園児を招いた敬老会、年末蕎麦の麦打ち、しめ縄作り)
また、個々の興味・好み・体力により、玄関前でのお茶会、畑仕事、廊下でのウォーキング、調理の下ごしらえ・盛付け、カラオケなど生活に楽しみと自信を感じながら過ごしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念を共有し、利用者の尊厳を大切にすることを実践できるように接遇・身体拘束・虐待防止についての研修やミーティングが行われ、一人ひとりの利用者の思いを汲み取れるよう努めておられます。
コロナ禍も落ち着き、久しぶりに今年は季節の移ろいを感じて頂けるお花見や地元の地引き網に参加することができました。これからまた従来通りの行事が再開できるよう前向きに検討されています。
また、食からも季節を感じて頂き、楽しんで頂けるよう行事食の提供や庭の梅の収穫、梅干し作り、笹巻き、筍の下処理や畑での野菜の収穫等それぞれが役割を持ちながら毎日を通して頂けるよう職員のみなさんはケアを続けておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し毎朝朝礼時に唱和し、職員全体で共有実践につなげている。特に尊厳については、虐待防止の委員会・実践につなげている 研修で話し合いを行っている。	理念を共有し、実践につなげるよう毎朝の朝礼時には唱和をされ、新採用の職員には研修も行われています。特に利用者の尊厳を大切にできるよう虐待防止委員会、研修において職員の共通理解を促し実践に向け取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、西保育所園児との交流、そうめん流しでの地区の小学生・保護者参加、美保関中学校の福祉体験の受け入れ等地域の方との交流を図っている。コロナ禍をきっかけとして、地域との交流が薄れて来ているが、復活を目指し努力中である。	コロナ禍の間、地元の地引き網に5年ぶりに参加されたり、中学生が9月には久しぶりに福祉体験に来られる予定です。保育所との交流も徐々に行われています。全てが従来通りとは行きませんが地域の方から野菜を頂ける交流は続けておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々を招いての交流事業に力を入れ、敬老会・そうめん流し・お茶会などを実施していたが、コロナ禍をきっかけに中止が続いており、認知症への理解を深める事業を再構築である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催し、利用者の現況、行事報告等を行い、委員の意見等の施設の運営やサービスに活かしている。コロナ禍状況は続いているが、利用者の現況・感染対策等を報告し、要望・意見等を伺い、サービスの向上に活かすよう努めている。	2ヶ月に1度現在は対面で開催されており、利用者の状況等の報告を行いメンバーの方々から意見・要望を伺いサービス向上に活かせるよう努めておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密にとり、情報共有を行い、協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議のメンバーとして参加されており、日頃から近くの美保関支所と連携を図り、地域包括からの問い合わせ等に対応されており、できるだけお互いの情報共有ができるよう心掛けておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護を前提とし、研修では、身体拘束の実例等を中心に研修を行い、どのようなことから拘束につながるかを話し合いをしている。	2か月に1度、身体拘束適正化検討委員会を開催されており、研修では具体例を基に身体拘束をしない介護の正しい知識と実践に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修において学び、虐待が見過ごされる事がないよう注意し防止に努めている。見過ごしてしまいがちな身近な虐待についても研修している。	2ヶ月に1度、高齢者虐待防止検討委員会を開催され、内部・外部研修も実施し、接遇・言葉掛け等利用者に配慮した介護ができるよう努めておられます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修において学び必要に応じて関係者と話し合い、相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様・家族様に十分に説明を行い、理解・納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議の意見・面会の際の要望等、運営に反映させている。介護計画更新時にも、改めて家族等の意見を聞くようにしている。	利用者とは日常的に関わりを持ち話しやすい関係作りをされています。家族からは面会時に意見・要望を伺われたり、毎月送付されるお便りで日頃の利用者の様子を伝えられたり、細やかな電話連絡もされ、意見・要望を聞く機会を持たれ、介護計画更新時にも意見・要望を聞かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや個別の面談で集めた意見・要望を運営に反映させている。	理事長も頻りに訪問されており、ケアマネから毎日のミーティングでの意見も伝えられています。また、個別の面談も行われており、その際に出た意見・要望も運営に反映できるよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の引き上げ、時間外労働の抑制等を図り、職場環境の改善に努めている。それぞれの家庭環境も考慮し、週休3日制を導入、定着率を高めている。	給与水準の引き上げや時間外労働の抑制に努め、個々の家庭環境に配慮し、週休3日制を導入され職員の定着率を高め、働きやすい職場環境作りに取り組まれています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の業務を通じての介護技術の向上や一人ひとりの個性を見ながら、指導し向上を図っている。パート職員は正社員への登用制度を設けている。また、資格取得について積極的に勧めている。	新人職員には介護技術の共有化に向けての研修の機会を設け、オンライン研修の活用もされながら、資格取得に向けて積極的に取り組めるよう図られています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し、職員同士が情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	丁寧に傾聴し、本人の希望を出来るだけ叶えられるように努めている。言いやすい関係になるよう特に初期は気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧に説明し、家族の希望を叶えられるよう努めている。特に初期には関係性に気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見極め、それを踏まえて家族の要望を聞き、適切な支援となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームで共に生活をするという意識を忘れず、日常生活の中で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にゆめゆめ通信を送付し、利用者様の様子を伝えたり、面会の際、ご本人の現況をお伝えしている。また、電話連絡もまめに行い、共に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前のように外出する機会はまだまだ少ないが、以前のようになじみの人との交流や面会、電話のやりとり等を行い関係が途切れないよう支援している。	徐々にコロナ禍前のように馴染みの方が訪問される機会も増えてはきています。外出が難しい場合は電話で話されて関係が途切れないよう支援されています。	昔のことを話して頂き、回想法につなげていくことに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されている方がいないよう日々の生活を通じて、利用者様の動向に常に気を配り、利用者様同士の良好な関りとなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて経過観察し支援している。相談があった場合には誠意を持って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族からの情報を得よう努めている。	職員は日々の関わりの中で利用者が話しやすい関係性を構築し、それぞれの思いや希望・意向の把握できるよう努めておられます。困難な方は生活歴や家族から情報を得て検討されています。	長生きをするための生きがいにつながる楽しみごとや目標を見つけてあげることに期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービス内容・生活歴等について、ご本人様、ご家族様、事業所から情報を収集し計画等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で様子、状態等を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・職員の意見を踏まえ、ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活を送っていただくよう計画を作成している。	毎日のミーティングの際に利用者の様子を共有され、モニタリングは2～3ヶ月毎に行われ、プラン見直しは半年に1度、利用者・家族・職員・医師からの意見等を聞き利用者本位の介護計画を計画作成担当が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録内容を職員間で情報共有し、話し合いながら日常に介護や介護計画に反映させている。	記録は紙ベースで残されており、申し送りノートとホワイトボードを活用し情報共有が行われています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診・救急搬送時の付き添い等、本人や家族の状況・要望に応じ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流・外出支援を通じて、地域資源を把握し日々の暮らしに役立てている。また、少人数でのボランティアは受け入れており、玄関の飾り付け等毎月来ていただき、皆さんに楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、事業所と連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	殆どの方が協力医である地元の医師をかかりつけ医にされており、定期的に往診があり予防接種にも来られています。その他の病院受診は家族と定期受診をされるか計画作成責任者が主に受診支援を行っておられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関りの中で、情報を常に把握し、早期の異常発見に努め、看護師に相談・指示を仰ぎ、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へ情報を提供し、安心して治療が受けられるよう支援している。病院関係者とも連絡を密にし、よりよいケアにつながるよう努めている。	入院時には病院の地域連携室のソーシャルワーカーと連絡を密に取りスムーズな入院・治療ができるよう情報提供されています。退院の際には退院カンファレンスがあり、退院後の生活の注意点やリハビリについて等アドバイスをもらわれています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から重度化について家族様と話し合い、今後の方針を一緒に考えている。	入所時には重度化対応についての方針を説明し同意を得ておられます。看取り対応については、対症的な事もあり現在行われていません。重度化が進んで来られた段階で家族・医師・ホームで、重度化に対する対応、次の段階の話し合いが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署の指導の下、救急救命講習を受講し、緊急時の対応について学び実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害・地震等の発生時の避難訓練を通して、職員の危機管理意識の向上を図っている。特に水害時の対応について話し合っている。	BCP計画も作成されており、火災・水害・地震に備え、年2回の避難訓練が実施され職員の危機管理意識の向上が図られています。災害時の備蓄も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。施設内で接遇研修も行っている。	排泄・入浴はマニュアルに従い対応されています。個々の尊厳を大切にされており、接遇研修も行い、言葉掛け等の対応に配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、ご本人の希望や思いを聞き自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活が遅れるように希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。毛染めやお化粧品等、ご本人の希望に添うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・テーブル拭きやお盆拭き等、一人ひとりの力を生かしながら、職員と共に準備・片付けを行い楽しみながら食事が出来るよう配慮している。	利用者それぞれが役割を持って準備や片付けをされています。魚屋からの食材も取り入れたり、畑で収穫されて野菜等季節感を大切にしたりメニューが提供されています。手作りのおやつや季節毎の行事食や梅干し作り、筍の皮剥き等昔から続けておられる作業も一緒に楽しい時間を過ごされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は、管理栄養士により管理、季節の食材を取り入れながら、バランスのとれた献立を提供している。食事量・水分量に関しては、日々の記録にて把握し、必要な食事と水分量が確保できるよう努めている。また、食事形態等、利用者一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を行い、一人ひとりの状態に合わせたケアを行っている。	各自食事の後は部屋の洗面台で歯磨き等の口腔ケアをされており、個々の状況に応じた声掛けや介助が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中・夜間ともその方に合った声掛けやトイレ案内等、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記入され、個々のパターンの把握をされそれぞれに対応した声掛け・誘導・介助を行っておられます。最期までトイレでの排泄ができるよう支援を続けられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれる食材の利用、体操・散歩等身体を動かす機会を作り、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や気分によって時間をずらしたり、曜日を変更する等柔軟に対応し、気持ち良く入浴して頂けるよう支援している。	利用者の希望に沿えるよう柔軟性を持って入浴を楽しんで頂けるよう支援されています。基本的には週2回は入られています。入浴拒否傾向の方もおられますが、時間や係の人を変えるなどの工夫をしながら対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに応じて休んで頂いている。日中はなるべくレクリエーション・体操等で身体を動かす機会を作り、夜間良眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人ファイルに閉じ情報を共有し服薬の支援を行っている。症状の観察にも努め変化等あれば主治医へ報告・相談している。	薬の情報は個人ファイルに綴じ情報共有をされています。薬の変更ある場合は把握し、変化がないか注意して見守り、変化が見られた場合には速やかに主治医へ連絡し報告、指示に従い対応されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・片付け、洗濯物の整理等、それぞれに日常の生活の中で役割を持ってもらい、張り合いのある日々を支援している。また、季節の行事やレクリエーションを取り入れ、気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には施設周辺の散歩、畑仕事や収穫、玄関先でのお茶会等日常的に戸外へ出掛けるよう支援している。	5類移行もコロナ陽性者が確認される現状があるため従来のように外出は難しいですが、グループに分かれ季節の移ろいを感じられるようお花見に出かけられたり、畑仕事や玄関先でのお茶会が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際はご自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様などに自ら電話されたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間・居室は清潔を保ち、季節に応じた花や飾りつけ等生活感や季節感を取り入れ、またホールには加湿空気清浄機を置き、感染対策にも努め、心地よいと思っ頂けるような空間づくりに努めている。	共有空間には季節の花や利用者の年代に相応しい落ち着いたものがある物が置かれています。また、ホールは温度・湿度管理をされ空気清浄機も設置されています。清潔な空間で心地よく過ごして頂けるよう努めておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・談話室で利用者様同士で過ごし、親しい方同士では居室へ相互訪問もされている。又、玄関先や庭にベンチを置き、思い思いにくつろげる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や、好みの物を持参して頂き、ご本人が落ち着いて過ごされるよう支援している。	全ての居室にトイレも完備されており、起き上がりが楽なように全員がベットを使用されています。安心安全で利用者が居心地のよい居室になるよう支援されており、使い慣れた物や家族の写真等本人が落ち着いて過ごせるよう持って来られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	建物は平屋建てで、施設内部の手すりにつかまりながら自立歩行を行いやすくしている。居室のトイレは夜間の安全自立に役立つ。また、居室のドアの名前を表札にし、ご自分の部屋が分かりやすいようにしている。		